

乳がん

乳がんは、女性の12人に1人が発症する疾患です。女性のがん種類別死亡者数では、大腸がん、胃がんについて乳がんが第3位で、年間1万人以上の方が亡くなります。今回は、年々増加傾向にある乳がんについて解説します。

はじめに

乳房には乳腺があり、これは母乳を産生する小葉と、母乳の通り道である乳管から構成されています。

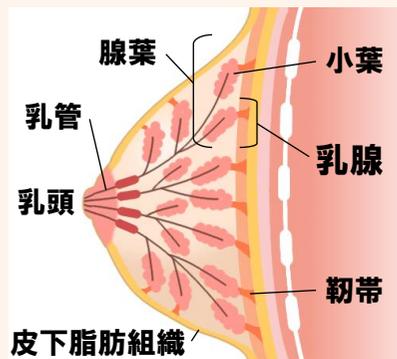
小葉や乳管の細胞から発生するのが乳がんです。

乳がんの発生原因はまだ解明されていませんが、

発生や進展には女性ホルモンのエストロゲンが関与しています。

また、肥満や未婚女性は、乳がんのリスクが高くなることが知られています。

乳がんが最も多く発生するのは、外側上部、次いで内側上部、外側下部、内側下部、乳輪部の順となっています。



症状

乳がんが5~10mmほどの大きさになると、しこりとして触れるようになります。ちょうど消しゴムの様な硬さです。

がんは周囲の組織を巻き込みながら進展していくので、進行に伴い皮膚にえくぼの様な陥凹ができます。

脇の下のリンパ節へ転移すると、しこりが触れたり、リンパの流れが悪くなって腕が浮腫むこともあります。

がん細胞がリンパや血液の流れに乗ると、肺、肝、骨などへ転移します。



検査

●触診

●マンモグラフィ

透明な板で乳房を圧迫して撮影します。できるだけ薄く伸ばして撮影しないと病巣がうまく検出できません。高齢者は乳腺組織が減るので、病変の検出がしやすくなります。

●超音波検査

●CT・MRI 検査

●細胞診・組織診

乳房のしこりに針を刺して細胞を吸引する。それよりも太い針を刺して組織を採取します。

これにより診断が確定します。



治療

手術

乳房温存手術	3cm以下で、乳腺の中で大きく広がっていない。
単純乳房切除術	3cmを越える。 3cm以下でも周囲に広がっている。
胸筋温存乳房切除術	わきの下のリンパ節も切除する。

薬物療法

ホルモン療法	70%ほどの乳がんは、女性ホルモン(エストロゲン)の影響を受けて増殖するため、これを抑制することで増殖を抑えます。
分子標的薬	30%ほどの乳がんは、HER2(ハーサー)という蛋白をもつ。これを狙い撃ちする薬剤です。
化学療法	いわゆる抗がん剤です。

これらを患者さんのタイプによって組み合わせます。

早期発見が予後が良いことはすべてのがんに共通しますが、乳がんの場合、2cm以下でわきの下のリンパ節に転移がない、早期乳がんでは10年生存率が約90%です。

そのためには、やはり定期健診が重要となります。